

平成31年度

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



避難所開設訓練

2019



ダイジェスト



《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課

本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援
＜全小・中学校＞
 - ・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流
＜市内3中学校(H30)＞
 - ・グラウンドゴルフ
 - ・プランター花のプレゼント
 - ・農産物や加工品などの販売
 - ・花火大会
- ③中学生サミットによる支援
 - ・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
 - ・交流活動の報告会

～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業
市内5小学校、3地域
 - ・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業
(文部科学省指定)＜大曲中＞
 - ・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練
H25 平和中 H26 大曲西中 H27 西仙北中
H28 仙北中 H29 太田中 H30 大曲南中
- ④市総合防災訓練への参加
H23中仙地域 H24南外地域 H25協和地域
H27太田地域 H28大曲地域 H29県冬季防災訓練
H30仙北市田沢湖地区

～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
 - ・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供
 - ・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
 - ・携帯電話等による電子メール配信システム整備

【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★市内小・中学校の防災ラジオの整備及び受信環境整備

【今後の方向性】平成31年度の計画

～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

<市内3中学校>

- ・ 平和中⇄大槌町（吉里吉里地区長寿会）
- ・ 太田中⇄大槌町（大槌学園）
- ・ 南外中⇄南三陸町

（さんさん商店街、元仮設住宅の方、志津川中）

～ II・国や市の事業 ～

①市総合防災訓練 西仙北地域

② **だいせん防災教育
「生き抜く力育成」事業**

～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の
見直しと改善

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

実施予定日	令和元年10月29日（火）
実施場所	大仙市立豊成中学校 校舎
参加者	豊成中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 市内中学校生徒代表及び教職員 大船渡市赤十字奉仕団及び大船渡市立赤崎中学校2年生 消防署等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課

～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・モデル校の実践に中学生サミットメンバー及び市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付け、「自分の命は自分で守る」児童生徒の育成に“つなげる”
豊成地区の防災モデル実践の成果を大仙市内全域に“広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

避難所開設訓練の概要



豊成中学校

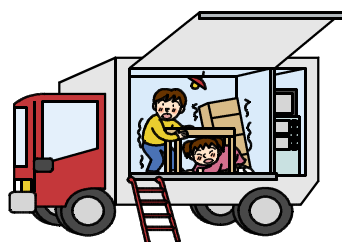
期 日	主な活動	訓練参加者
10月29日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト ・避難訓練 ・避難所開設（室内パーティション等） ・避難住民の受入 ・災害時炊飯袋を利用した炊き出し訓練、カレーライスの提供 ・東日本大震災の際に、避難所開設にあたった方を招いての講演会 	全校生徒及び職員 豊成地域住民 大船渡市赤十字奉仕団及び大船渡市立赤崎中学校2年生 中学生サミットメンバー及び引率教員 その他関係機関、来賓等 総計約261名

平和中学校

期 日	主な活動	訓練参加者
7月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・避難所開設 ・避難者受入 ・炊き出し訓練、食事の提供 ・消防士による講話 	全校生徒及び職員 神岡小学校5年生 地域住民 関係機関等

大曲中学校

期 日	主な活動	訓練参加者
10月10日(木) * 地域合同防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・煙道体験 ・初期消火活動 ・地震体験車への乗車 ・避難所開設訓練 ・心肺蘇生CPR、AEDの使い方など一次救命処置訓練 ・炊き出し訓練 ・成田防災危機管理監の講演 	全校生徒及び職員 若竹町住民 大仙市大曲消防署職員 大仙市総合防災課職員 大仙市水道局職員等



1 ねらい

- (1) 大規模な災害時を想定した具体的な活動に取り組みながら、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験し、災害時の迅速かつ適切な行動や避難所開設に係る役割や支援の方法を身に付ける。
- (2) 学校、地域住民（地域自主防災組織）、関連機関との協力体制を確認するとともに、連携した訓練を通して、自助から共助へと主体的に行動する力及び防災に対する高い意識を身に付ける。
- (3) 東日本大震災の被災地で避難所開設に実際に関わった方々のお話を聞き、避難者の心に寄り添った避難所運営を行うとともに、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画する態度を育む。

2 実施日時 令和元年10月29日（火） 9：30～14：00

3 場 所 豊成中学校 グラウンド・体育館及び校舎内

4 参加者 豊成中学校生徒（48名）、豊成中学校教職員（17名）
 大仙市総合防災課職員（6名）、大仙市教育委員会教育指導課職員（6名）
 大仙市中仙支所職員（4名）、中仙公民館職員（1名）、豊川分館職員（1名）
 豊岡分館職員（1名）、豊成地域住民（26名）
 大仙市赤十字奉仕団（40名）、大船渡市赤十字奉仕団（17名）
 中仙東保育園園児（31名）職員（7名）
 大船渡市立赤崎中学校2年生（17名）教員（3名）
 中学生サミットメンバー（25名）及び引率教員（11名）・・・ 総計 261名

5 想定内容 10月29日（火）午前9時30分頃、中仙地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、中仙地域で震度6弱を記録した。豊成中学区を含む中仙地域の多くの家屋が倒壊し、水道・電気のライフラインがあちこちで停止したほか電話も一部不通になった。通常の生活が営めない状況になり、各避難所に市民が集まった。大仙市災害対策本部からの避難所開設の要請を受け、避難所開設の運びとなった。

6 活動内容

班 名	主な活動内容
総 務	避難訓練終了集会・講演の企画運営，居住スペース割り当て
施設安全	パーティション作り，照明・暖房等の設置，食事配膳
連絡調整	受付，名簿作成，案内表示，避難者への情報伝達
給 食	炊き出し（カレーライス），食事配膳
物資運搬	必要物資の運搬・搬入，簡易トイレの設置，食事配膳
救護・保健衛生	救護所設置，負傷者への応急処置，健康チェック，ゴミ箱製作・設置

* 中学生サミットで参加している生徒，大船渡市立赤崎中の交流生徒も，一緒に活動する。

7 活動の様子



9:30 地震発生シェイクアウト！



グラウンドに全員避難



10:00 避難所開設準備



居住スペースづくり



パーティションづくり



避難者受付準備



赤十字奉仕団のみなさんとカレーライスづくり



11:00 避難者受け入れ開始



赤十字のみなさんと三角巾を使った救急処置方法を学びました



11:10 保育園児も一緒に



12:00 おいしいカレーライスをみんなでいただきました



東日本大震災で被災された方の講演



終了集会 自主防災組織に引継



大船渡市立赤崎中学校の2年生のみなさんが一緒に活動してくれました。津波の被害に遭った校舎もきれいに建て直されて、学校・地域が一丸となって復興に向けて頑張っている姿を紹介していただきました。

絆をつなぎ「たくましく生きぬく力」を育む防災教育

平和中全校の取組 避難所開設訓練

- 期 日 令和元年7月3日（水）
- 対 象 平和中学校・教職員・神岡小学校5年生・地域住民・関係機関
- 想定内容

7月3日（水）13時頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、5校時の授業時間に地震が起こった。そのため、生徒たちの身の安全確保と大仙市からの要請で、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。

□活動の様子



①震度6の地震発生
（シェイクアウト）



②頭を守りながら落ち
着いて避難



③大仙市神岡支所から避難所
設営の要請



④全校生徒が体育館に集
し、打合せ・準備をする。



⑤担当のリーダーのもと係ごと
に集合し、打合せを行う。



⑥神小5年生も合流し、中学生
と一緒に活動する。



⑦施設安全班による
パーティションづくり



⑧救護班による救急用具の準備



⑨簡易テントの設営



⑩情報の集約と提供
(総務班)



⑪健康観察(救護班・保健衛生班)



⑫消防士による講話(地震
時における避難について)



⑬避難所運営の引き継ぎ



⑭今日の活動の振り返りと
感想発表

【参加された自治連合会会長の感想より】
「災害が起きた場合、この地域では、本当に中学生の力が大きく、頼りになっている。私たちは「そんな中学生を応援していこう」「学校に協力していこう」という気持ちを各自治体もっている。小学生をリードしながら素晴らしい活動をしてくれた平和中生のみなさん、本当にありがとう！

□まとめ(身に付けさせたい力)

○平和中生一人一人が

「たくましく生きぬく力」 「やさしさ、思いやりの心」

○平和中学校全員で

「自助・共助の精神」 「地域への貢献」

○そして…

**「地域に頼られる大きな存在の中学生
・地域に期待される学校へ」**

◎ 長年にわたる地域と一体となった本校の避難所開設訓練を始めとする防災教育の実践が評価され、第28回山下太郎地域文化奨励賞を受賞しました。



令和元年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 令和元年10月10日(木)

3 実施場所

大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

4 参加者

大曲中学校生徒(768名)

教職員(60名) 若竹町住民(20名)

大仙市消防本部 大仙市総合防災課

大仙市水道局

5 実施内容

○訓練1(地震避難…1・2・3年生・職員)

10月10日(木)午前9時30分頃、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続き火災も発生したという想定である。緊急放送で生徒に避難指示があり、一斉に体育館に避難した。



○訓練2～4(初期消火・煙道体験…1年生)
火災発生後の初期消火活動と火災発生時の避難体験として、水消器による消火活動と煙道体験を1年生全員が行った。



○訓練5(成田危機管理監による講演…2年生・若竹町住民)
成田危機管理監から、河川の増水による災害や対策方法を聴き、防災に対する意識を深めた。



○訓練6(地震体験…2年生・若竹町民)
地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。



○訓練7 (避難所開設… 3年生・若竹町住民)

「訓練1 (避難訓練：地震想定)」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示がきたことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練8 (心肺蘇生CPRとAED… 3年生

若竹町住民)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。



○訓練9 (炊き出し訓練… 1～3年生

若竹町住民)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水に来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



6 訓練を終えて

今年も天候にも恵まれ、計画した活動がすべて順調に行われた。昨年度までと同様に若竹町住民や市防災課、消防署などの関係機関と連携し、総勢約800名で訓練を実施することができた。緊急災害時には地域等とのネットワークを大切に、この訓練を生かして行動できるようにしていきたい。

各 学 校 の 取 組
か ら

被 災 地 交 流 学 習

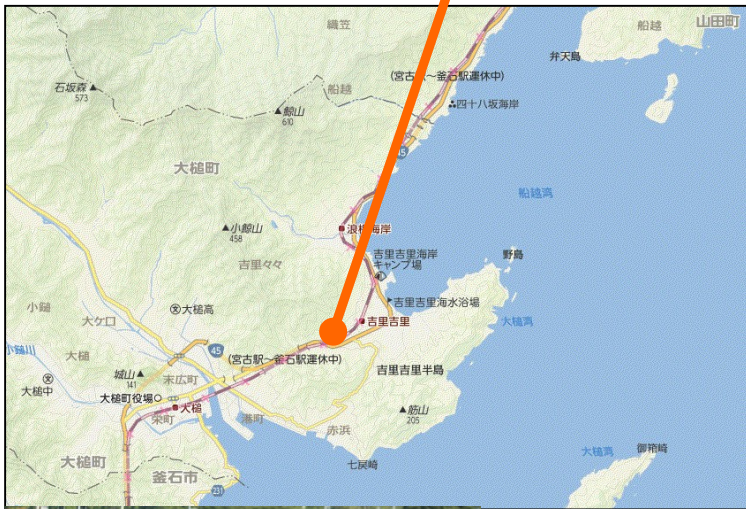
防 災 地 域 学 習

絆をつなぎ「たくましく生きぬく力」を育む防災教育

平和中各学年の取組 被災地交流学习・防災地域学習

- <3年生> ■期 日 令和元年9月6日(金)
■内 容 被災地交流学习(グラウンドゴルフ交流)

第8回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会 9月6日(金) 大槌町立吉里吉里農村グラウンド



グラウンドゴルフでの交流



表彰式や見送り会
での交流



今年は規模を縮小し、日帰りのグラウンドゴルフ大会を実施した。大槌町吉里吉里地区の被災地の復興状況について理解を深め、長寿会の皆さんとグラウンドゴルフを通して、自分たちにできる交流を深く考えることができた。被災地との交流を実際に体験することで、ふるさとの防災を高めるとともに、これからの自分たちの生き方を見つめ直すよい機会となった。



<1年生> ■期 日 令和元年7月9日(火)～10日(水)

■内 容 被災地交流宿泊学習

マリノランド陸中では、協力しながら源流をたどり、沢登り体験を行った。また、津波伝承館では、当時の映像を見ながら被災の状況や津波の恐ろしさを学んだ。釜石市内をボランティアガイドに同乗してもらい、被災当時の体験談や復興への道のりなどの話を聞き、防災への学びを深めることができた。



沢のぼり&沢遊び



津波伝承館での館長さんの講話



マリノランド陸中での宿泊体験



釜石市内被災について語り部さんのお話

<2年生> ■期 日 令和元年9月6日(金)

■内 容 地域防災学習

国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所の職員2名の方から、雄物川の概要と水害対策について、スライドと詳しい資料を基に学んだ。地域における災害を知り、またその防災のためにいろいろな人たちが努力し、頑張っていることを改めて感じることができた。



雄物川について説明



雄物川の水害対策について



説明について生徒からの質問



学習の振り返りと感想発表

南三陸町交流

大仙市立南外中学校被災地交流事業

■南三陸町さんさん商店街訪問(令和元年11月8日(金)午前)

今年で7年目を迎える南三陸町との交流。今年も3年生が学校代表として訪問しました。朝早い出発でしたが、生徒たちは疲れも見せず、南三陸町に到着してすぐにほほえみ直売所の皆さんと南外の農産物や加工品、また特別栽培米の販売を行いました。呼び込みの声や陳列の仕方、試食の勧め方など、初めは少し恥ずかしがっていましたが、すぐに慣れて元気な声で意欲的に取り組みました。

さんさん商店街での物産販売



■ 志津川中学校との交流(令和元年11月8日(金) 午後)

志津川中学校生徒との交流及び防災学習

物産販売終了後は、地元の志津川中学校を訪問しました。お互いの学校紹介の後、志津川中学校での防災への取組等について学びました。最後に南外中学校から歌のプレゼントを行いました。



令和元年度 太田中学校の大槌交流活動の報告

～岩手県大槌町立大槌学園との交流から～

大仙市立太田中学校生徒会

5月17日（金）～18日（土） 1年生全員（大槌学園7年生との交流）
テーマ：「新たな出会い ～学び高め合う私たち in大槌～」



活動内容：プランター回収
震災資料館見学・献花，黙祷
語り部ガイドによる講話
大槌学園体育祭見学
釜石鵜住居復興スタジアム見学



8月29日（木） 2年生全員（大槌学園8年生との交流）
テーマ：「届けよう，太田の花を！ ～これからも強い絆で～」

活動内容：花（プランター240個）の贈呈式

- ・両校の代表生徒あいさつ
- ・エール交換 等

プランター設置作業（両校共同で）

見学活動（旧大槌町役場跡地，大槌駅，
鵜住居復興スタジアム 等）



10月18日（金） 3年生全員（大槌学園9年生との交流）

テーマ：「この出会いをいつまでも ～これからも強い絆で～」



**活動内容：太田産新米の贈呈式
交流会**

- ・両校の代表生徒のあいさつ
- ・合唱，踊り（よさこい）披露 等



【1年生の感想から】

私たちは大槌交流を通して、自然災害の怖さや、人を笑顔や元気にする事の大切さを学びました。私たちが大槌に行った時はだいぶ復興が進んでいて、映像で震災当時の様子等を見ました。私たちは誰も声が出なかったし、いつ起こるか分からない怖さ、もし自分がそういったことに遭遇したらという緊張感がありました。また、人を笑顔や元気にするということでは、深い傷を癒やすのには時間がかかるかもしれませんが、誰かを笑顔や元気にできれば、それが周りにも伝わり、みんなが笑顔・元気になるのだと、この交流を通して感じました。

これからの生活では、当たり前に見えるようなことでも当たり前と思わず、常に感謝の気持ちを持ちながら、一瞬一瞬を大切にしていきたいです。

【2年生の感想から】

私たち2年生にとって2回目となった今回の大槌訪問は、大槌の復興を肌で感じる体験となりました。昨年の交流では、まだあちらこちらに見られた、津波が残した恐ろしい爪痕を目の当たりにしてきました。しかし、今年は新しい駅や出来上がってきた堤防などを見て、きっと学年のみんなが、1年間という短い期間のうちに急激に変わった大槌の景色に驚き、そして元気や感動をもらったと思います。さらに大槌学園8年生の皆さんとは、「花」を通して交流を深め、さらに大槌を身近に感じる事ができました。

来年私たちは最高学年となり、最後の大槌交流となります。そして来年で大槌との交流も10年目を迎えます。10年という長い年月をかけて築かれてきた太田中と大槌学園の絆をしっかりと受け継ぎ、それらを下の学年にも伝えていきたいです。

【3年生の感想から】

僕たち3年生は、10月18日に大槌学園を訪問した。大槌学園へ向かうバスの中では、どんな交流にしようかとイメージを膨らませ気持ちが高ぶっている人もいれば、コミュニケーションにあまり自信がなく、緊張や不安そうな様子を見せている人もいた。

大槌学園に到着し、交流活動が始まった。「太田産の新米の贈呈」や「よさこい」など、プログラムは順調に進み、いよいよ最後の「フリートークタイム」の時間になった。最初の2分ほど沈黙が続いた。しかし時間が経つにつれて、どんどん会話は弾み、気が付くと会場全体が笑顔や笑い声に包まれていた。それは緊張や不安などという言葉とは対照的なものだった。あの素晴らしい光景は、今でも僕の胸に焼き付いている。



大仙市教育委員会
Daisen City Board of Education